平壌陸軍兵器補給廠略歴

（平壌陸軍兵器支廠、小倉陸軍兵器支廠平壌出張所）

年	月	日	略歴	摘要
昭15	4	1	大正十二年小倉陸軍兵器支廠平壌出張所として平壌に設置その後平壌陸軍兵器支廠に改編	
			編成改正により平壌陸軍兵器支廠（長、中佐梶山美介）を平壌陸軍兵器補給廠と改称	
昭17	10	7	在鮮部隊に対する兵器、弾薬等の補給業務に従事	
			軍令陸乙第二七号により編成改正	
			編成	
			本廠　大佐　遠藤静一	
			大佐　鎌奥敏吉	
			総務科　少佐　長谷川義治	
			兵器科　技少佐　寺本長三郎	
			輸送科　技少佐　和田光衛	
			会計科　主大尉　板倉確淳	
			医務科　医中尉　原田恒種	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭18	9	24	次のものを設置
			斧山面塡薬所 中佐 松村 久
			兼二浦分廠 中尉 小川弘丈
昭19			次の分廠等を設置
			中尉 相沢一郎
			富平分廠 大尉 夏目文一
			安養分廠 大尉 小川弘丈
			永同分廠 大尉 森元一郎
			倭館常駐班 曹長 原正
			釜山常駐班 曹長 出田米光
			大尉 長光栄
			文坪常駐班 大尉 高瀬長蔵
			羅津常駐班 中尉 大塚勘作
			歙谷常駐班 少尉 久米博嘉
昭20	4	15	次の常駐班及修理班を設置
			舎人場常駐班 中尉 上崎敏夫
			済州島兵器修理班 大尉 迫田早苗
	7	10	兵器行政本部長の隷下を脱し朝鮮軍司令官の隷下に入る

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

910の3

昭20 8 15	停戦	
8 17	軍属および朝鮮人を解雇傭	
8 26	兼二浦分廠、舎人場常駐班等は本廠に合流しともに武装解除	
9 1	将校は美観洞に収容さる	
10 25	同収容所出発	
10 27	興南着	
10 29	興南港出帆	
11 1	「ポシエット」上陸、入「ソ」	
9 1	下士官以下は三合理に収容さる	
9 12	第二二作業大隊編入	
昭21 6 19	秋乙に移動秋乙第四作業大隊に編入替、興南に移動	
7 18	興南港出帆	
7 20	入「ソ」「ポシエット」	
	斧山面塡薬所の行動	
昭20 8 21	軍属工員を解雇し現地召集兵および内地人工員をもつて自衛警戒にあたる	
8 26	部隊命令により日系軍属を平壌官舎地帯に移動せしめ現地応召将校を解散	
9 11	斧山面において武装解除	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

310の4

昭20	
9	
11	平壤に移動し将校は美勒洞に、下士官以下を三合里に収容爾後本廠と同行動。 文坪、欽谷、羅津等の常駐班は最寄北鮮部隊に合流同行動。 富平、安養、永同各分廠、倭館、釜山各常駐班および済州島兵器修理班等は所在南鮮部隊に合流同行動。

2079

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一二野戦補充馬廠略歴

（中央馬廠会寧支廠）

通称号　朝第七四八九部隊、朝第二九〇〇三部隊

年	月	日	略歴	摘要
明26		頃	鳥取県に軍馬補充部大山支部および同赤碕派出部を設置	
大11	4	20	軍馬補充部大山支部は朝鮮咸鏡北道雄基に移転し軍馬補充部雄基支部と呼称	
			同時に羅津分厩所設置	
			内地より二才馬を購入し五才迄育成、各隊に補充した	
大12	4	20	赤碕派出部を合併	
昭13	8		張鼓峯事件の際軍属の約半数応召	
昭15		頃	羅津分厩所を閉鎖農圃に移転	
昭17	10	10	中央馬廠会寧支廠と改称、会寧に移転	
			雄基支部設置	
			軍馬の購入、育成、調教、輸送等に従事	
			農圃においては主として馬糧の生産、朝鮮馬の育成等に従事	
昭20	4	頃	軍属（調教手）の多くを同廠に召集	
	7	28	第一二野戦補充馬廠に改編、軍馬補充部の隷下を脱し、朝鮮軍司令官の隷下に入る。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20			
8 9	日「ソ」開戦		
8 13	雄基支部、農圃派出部本隊に合流		
8 14	南鮮移駐のため会寧出発		
8 15	茂山、恵山鎮を経て吉州着		
8 25	吉州にて武装解除		
8 26	吉州出発		
8 31	羅南着		
9 2	羅南出発		
9 18	本宮収容所を経て咸興中学校に収容		
自 10 15	咸興港出帆		
至 10 28			
自 11 25	「ウラジオストック」上陸入「ソ」		
至	隊長	大佐	三輪好政
		大佐	幸村銀六
		大佐	諸戸貞彦
		大佐	岡田親秀
		大佐	浅岡精一
		大佐	星善太郎
		大佐	宮尾癸巳郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

特設警備第四五一大隊略歷

通称号　朝第八八一〇部隊

年月日	略歷	摘要
昭18 6 24	軍令陸甲第五八号により編成下令	
9 12	朝鮮咸鏡北道羅南において編成完結（常置員将校一、下士官五）	
	爾後清津において警備業務に従事するとともに現地在郷軍人に対し数度にわたり短期間教育召集を実施した。	
昭20 8 9	日「ソ」開戦	
8 12	防衛召集実施、清津地区の警備にあたる	
8 13	主力は天馬山北区に展開「ソ」軍と交戦	
8 14	駱駝山北側に進出	
8 15	払暁同高地攻撃後鳳岩洞、漁浮洞に集結	
8 18	同地において武装解除	
8 20	羅南に集結、同日羅南出発	
8 23	その間一部の離隊者があつた 古茂山収容所に収容	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20	9	2	主力は古茂山第三作業大隊に編入
			病弱者は間島省延吉収容所に送らる
昭21	5	31	古茂山出発
	6	9	興南収容所に収容
	6	14	興南港出帆
	6	16	「ポセット」上陸入「ソ」
			一部は作業第一、第六大隊に編入し主力と殆んど同時期に入「ソ」
			隊長
			中尉 小林耕造

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

特設警備第四五二大隊略歷

通称号　朝第七四五三部隊

年	月	日	略歷	摘要
昭19	1	4	軍令陸甲第一号により編成下令	
	2		朝鮮咸鏡北道羅南において編成完結（常置員将校二、下士官七）	
			爾後同地において警備業務に従事するとともに現地在郷軍人に対し数度にわたり短期間の教育召集を実施した	
自昭20	8	10	日「ソ」開戦により防衛召集下令、第四中隊は会寧の警備担当	
至	8	14	主力は羅南地区の警備にあたる	
	8	14	第四中隊主力に合流	
	8	17	羅南地区司令官の命により吉州に転進	
	8	18	停戦命令受領	
	8	20	朱乙にて武装解除	
	8	21	部隊の大部解散	
	8	31	残留者は古茂山収容所に収容	
昭21	4	15	古茂山出発綏芬河経由入「ソ」	

隊長　大尉　山中　勇

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

特設警備第四六一大隊略歷

通称号　朝七四一六部隊

年月日	略歷	摘要
昭20 1 4	軍令陸甲第一号により編成下令	
2 23	朝鮮咸鏡北道城津において編成完結（常置員将校一、下士官四）	
	爾後同地において警備業務に従事するとともに現地在郷軍人に対し数度にわたり短期間の教育召集を実施した	
8 9	日「ソ」開戦により防衛召集下令	
8 15	停戦	
8 23	部隊解散	
8 24	常置員以下残留者武装解除	
	爾後全員解散し部隊としての行動はしなかつたが所在部隊に合流入「ソ」したものもある	
	隊長　大尉　末広満雄	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

特設警備第四〇二大隊略歴

通称号　朝第八八三〇部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭18	6	24	軍令陸甲第五八号により編成下令	
	8	13	朝鮮咸鏡南道咸興において編成完結（常置員将校一、下士官四）	
			爾後咸興地区において警備業務に従事するとともに現地在郷軍人に対し数度にわたり短期間の教育召集を実施した	
昭20	8	9	日「ソ」開戦により防衛召集下令	
			咸興地区の警備にあたる	
	8	15	停戦	
	8	18	地区司令官の命により部隊を解散	
			常置員は所在部隊に編入、同一行動	

隊長　中尉　河上清久

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

特設警備第四〇三大隊略歴

通称号　朝第八八三一部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭18	6	24	軍令陸甲第五八号により編成下令	
	8	13	朝鮮咸鏡南道興南において編成完結（常置員将校一、下士官四）	
			爾後興南地区において警備業務に従事するとともに現地在郷軍人に対し数度にわたり短期間教育召集を実施した	
昭20	8	9	日「ソ」開戦により防衛召集下令	
	8	13	主として同地日本窒素会社々員をもつて人員を充足し興南地区の警備にあたる	
	8	15	停戦にともない約一ケ小隊を残し大部を召集解除	
	8	18	残置者全員召集解除	
			隊長　中尉　斉藤滝蔵	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

特設警備第四〇五大隊略歷

通称号　朝第七四一二部隊

年	月	日	略歷	摘要
昭19	1	4	朝鮮咸鏡南道北青において編成完結（常置員将校二、下士官七）	
			爾後同地にありて警備業務に従事するとともに現地在郷軍人に対し数度にわたり短期間の教育召集を実施した	
昭20	8	9	日「ソ」開戦により防衛召集下令	
			現地在郷軍人を全員召集	
	8	13	咸興地区司令官の命により部隊全員城津に移動	
	8	17	北青において朝鮮人の暴動のため主力は北青に移動	
	8	22	咸興地区司令官の命により部隊を解散	
	8	23	常置員は新北青において武装解除	
			部隊としての行動はないが一部「ソ」軍に収容された者もある	

隊長　大尉　椎木巳代治

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

特設警備第四〇八中隊略歷

通称号　朝第七四八七部隊

年月日	略歷	摘要
昭20 2 25	朝鮮咸鏡北道阿吾地において編成完結（常置員将校一、下士官三）	
	爾後同地にありて警備業務に従事するとともに現地在郷軍人に対し数度にわたり短期間の教育召集を実施した	
8 9	日「ソ」開戦により防衛召集下令	
	阿吾地付近の警備	
8 15	停戦	
8 23	茂山に集結、部隊解散	
	隊長　中尉　湯川正雄	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四〇一特設警備工兵隊略歷

通称号　朝第七四四三部隊

年月日	略歷	摘要
昭19 10 6	朝鮮咸鏡南道咸興において編成完結（常置員将校一、下士官四）	
	爾後同地にありて警備業務に従事するとともに現地在郷軍人に対し数度にわたり短期間の教育召集を実施した	
自10 24 至11 4	連浦飛行場拡張、掩体構築工事援助	
自昭20 3 10 至4 9	宣徳飛行場拡張、誘導路工事等に従事	
自5 10 至5 30	興南日本窒素肥料株式会社疎開援助作業のためその都度召集を実施した	
8 9	日「ソ」開戦	
8 10	防衛召集を実施し宣徳および連浦飛行場警備	
8 15	停戦	
8 19	部隊解散	
8 20	一部残留者武装解除	
8 26	定平に収容	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20		
10	10	11
25	29	2
本宮に移動	興南港出帆	入「ソ」（ポシエット）隊長 少尉 加納武男

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四〇九特設警備工兵隊略歴

通称号　朝第七四五四部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	2	23	朝鮮咸鏡北道会寧において編成完結（常置員将校一、下士官五）	
			爾後同地にありて警備業務に従事するとともに在郷軍人に対し数度にわたり短期間教育召集を実施した	
	8	9	日「ソ」開戦により防衛召集下令	
	8	13	会寧出発	
	8	15	羅南着	
			羅南師管区司令官の命により第二〇二、第三〇三高地等の配備につき「ソ」軍と交戦四〇余名の戦死傷者を生じた	
	8	19	主力は羅南付近にて武装解除	
	8	23	古茂山に収容	
	8	20	一部は清津において武装解除	
	8	23	古茂山に収容主力と合流	
	9	上旬	古茂山第三作業大隊に編入	
	12	6	羅津埠頭整理作業のため一部の者は古茂山出発	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭21	1	16	右作業終了古茂山帰着
	5	30	古茂山出発
	6	14	興南港出帆
	6	16	入「ソ」
隊長			
中尉	岩村茂夫		

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四一〇特設警備工兵隊略歷

通称号　朝第七四五五部隊

年	月	日	略歷	摘要
昭20	2	23	朝鮮咸鏡北道清津において編成完結（常置員将校一、下士官四）爾後同地にありて警備業務に従事するとともに在郷軍人に対し数度にわたり短期間の教育召集を実施した	
	8	9	日「ソ」開戦により防衛召集下令	
	8	13	輸城川付近において「ソ」軍と交戦隊長以下約三〇名の戦死傷者を出した	
	8	15	羅南に転進	
	8	18	朱乙に集結	
	8	20	同地において武装解除後羅南に集結この間部隊の大半解散	
昭21	8	23	古茂山に収容	
	9	3	古茂山第二作業大隊に編入	
	12	26	羅津港へ作業のため移動	
	2	6	古茂山に帰着	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭21	5	31	古茂山出発
	6	23	興南港出帆入「ソ」

隊長

中尉　石井三男

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

羅南地区司令部略歴

年	月	日	略歴	摘要
昭20	3	24	朝鮮咸鏡北道羅南において編成	
			爾後同地において咸鏡北道地域の警備	
	8	9	日「ソ」開戦により防衛召集実施	
	8	13	羅南師管区第一支隊（陀美支隊）を編成、第一四二、第一四三大隊等を指揮し清津地区、羅南地区等の戦闘に参加	
	8	15	夕刻羅南師管区司令官の命により朱乙に転進したが停戦となる	
	8	20	羅南に集結、武装解除	
			現地応召者を召集解除	
	8	23	古茂山に収容	
	9	上旬	将校は将校大隊に編入	
	10	27	延吉収容所に収容、同地所在将校大隊に編入	
	11	7	満洲里経由入「ソ」	
昭21	9	上旬	下士官以下古茂山第四作業大隊に編入	
	4	13	琿春経由入「ソ」	
			司令官　少将　陀美　浩	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

羅南陸軍兵事部略歴

年月日	略歴	摘要
昭14 8 1	朝鮮咸鏡北道羅南において編成 爾後同地において兵事業務に従事	
昭20 8 9	日「ソ」開戦	
8 13	主力は羅南地区司令部に編入、爾後同司令部と同行動、一部吉良中佐以下二〇名は吉州に移動、兵事業務を続行中停戦となる	
8 23	吉州において武装解除 現地応召者を召集解除	
8 27	羅南に集結、同地に収容	
9 25	咸興に収容	
10 15	将校は将校大隊に編入	
10 28	興南港出帆	
11 2	入「ソ」	
初	下士官以下咸興所在作業大隊に編入、入「ソ」 部長　少将　陀美　浩	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

咸興地区司令部略歷

年月日	略歷	摘要
昭20 3 24	朝鮮咸鏡南道咸興において編成 爾後同地において咸鏡南道地域の警備	
8 9	日「ソ」開戦	
8 12	司令官以下主力は城津に移動、羅南師団区歩兵第二補充隊および特設警備第四六一大隊を指揮し戦闘に参加 一部（主として女子軍属）は咸興にありて防空通信に従事	
8 15	停戦	
8 20	軍属を解雇	
8 22	現地応召者を召集解除	
8 23	主力は城津において武装解除後羅南に向け行軍	
9 2	羅南より咸興に向け行軍	
9 20	咸興に収容、咸興残留の一部合流	
10 1	将校は興南に移動	
10 29	興南港出帆	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

958の2

昭20	11	2	入「ソ」
	10	3	下士官以下作業第一五大隊に編入
	10	8	興南港出帆入「ソ」

司令官

少将　今泉吉貞

2099

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

咸興陸軍兵事部略歴

年	月	日	略歴	摘要
昭14	8	1	朝鮮咸鏡南道咸興において編成	
			爾後同地において兵事業務に従事	
昭20	8	9	日「ソ」開戦	
	8	12	部長、地区司令官として城津に出動後梁取大佐兵事部職員を指揮し兵事業務続行	
	8	15	停戦	
	8	23	咸興において武装解除	
			同日現地応召者を召集解除し軍属を解雇	
	8	26	残余の職員中将校は定平に下士官は富坪に収容	
	10	28	将校は咸興将校大隊に編入、興南港出帆入「ソ」	
	10	7	下士官以下富坪出発	
	10	8	作業第一五大隊に編入興南港出帆入「ソ」	
			部長　少将　今泉吉貞	
			（地区司令官兼任）	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

平壌師管区司令部略歴
（第三〇師団司令部）

年月日	略歴	摘要
昭和十九年四月十二日	軍令陸甲第四三号臨時動員下令により第三〇師団南方転出に伴い同月二十九日留守第三十師団司令部となる	
昭20 2 28	軍令陸甲第三四号臨時動員下令	
4 7	平壌において留守第三〇師団を復帰し平壌師管区司令部編成完結	
	隷下部隊	
	平壌師管区歩兵第一補充隊	
	平壌師管区歩兵第二補充隊	
	平壌師管区砲兵補充隊	
	平壌師管区工兵補充隊	
	平壌師管区通信補充隊	
	平壌師管区輜重兵補充隊	
	第一五〇警備大隊	
	第一五一警備大隊	
	第一五二警備大隊	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一五三警備大隊
第一五四警備大隊
特設警備第四五三大隊
特設警備第四五四大隊
特設警備第四〇九中隊
特設警備第四一〇中隊
第四〇二特設警備工兵隊
第四一二特設警備工兵隊
第四一三特設警備工兵隊
平壌地区司令部
平壌陸軍兵事部
新義州地区司令部
新義州陸軍兵事部
海州地区司令部
海州陸軍兵事部
平壌第一陸軍病院
平壌第二陸軍病院
爾後平壌地区の防衛ならびに満洲、支那、南方、南鮮、内地等に対する人員補

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20	5	頃	充業務に従事
			より黄海道沿岸地域の陣地構築実施、平安南北道の防衛に任ず
	8	9	日「ソ」開戦
			開戦前の態勢を続行
	8	15	停戦
	8	18	現地応召者を召集解除（但しその後再召集）
			爾後八月三十日にわたり軍属を解雇傭
	8	26	平壌秋乙において武装解除
	9	2	将校は美勒洞に収容、将校大隊（長大橋大佐）に編入
	10	26	美觀洞出発
	10	30	興南経由入「ソ」
	9	2	下士官以下三合里に収容
	9	15	同地第一作業大隊に編入
	10	18	同地出発
	10	20	興南着
昭21	1	3	興南港出帆
	1	7	入「ソ」
			司令官
			中将竹下義晴

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

平壌師管区歩兵第一補充隊略歷

（歩兵第四一連隊）

通称号　朝第四二部隊、朝第二四二部隊

年月日	略歷	摘要
昭20 2 28	昭和十九年四月十二日軍令陸甲第四三号臨時動員下令により第三〇師団南方転用に伴い同月二十九日歩兵第四一連隊は歩兵第四一連隊補充隊となる	
4 7	軍令陸甲第三四号により臨時動員下令	
5 頃	平壌において歩兵第四一連隊補充隊を基幹として編成完結	
6 2	爾後同地区の警備ならびに他地区への人員の補充等に従事	
8 9	より平安南道、黄海道沿岸の海岸防備	
8 15	より主力は黄海道長淵付近の陣地構築作業	
8 18	一部平壌地区警備	
8 26	日「ソ」開戦	
9 2	主力は平壌に移動陣地構築に従事	
	停戦とともに分散部隊を平壌秋乙に集結	
	現地応召者を召集解除（その後再召集）	
	平壌において武装解除	
	将校は美勒洞に収容	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20	10	26	将校（長大橋大佐）大隊に編入
	10	30	興南港出帆
	11	3	入「ソ」
	9	2	下士官以下三合里に収容
	9	15	主力は第一作業大隊に編入
	10	18	三合里出発
	10	20	興南着
昭21	1	3	興南港出帆
	1	7	入「ソ」
昭20	9	8	残部は第二作業大隊編入
	10	8	三合里出発興南に移動
	12	24	興南港出帆入「ソ」

隊長　大佐　吉山次郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

平壌師管区歩兵第二補充隊略歴

（歩兵第七七連隊）

通称号　朝第四四部隊、朝第二四四部隊

年月日	略歴	摘要
	昭和十九年四月十二日軍令陸甲第四三号により臨時動員下令により第三〇師団南方転用に伴い同月二十九日歩兵第七七連隊は歩兵第七七連隊補充隊となる	
昭20 2 28	軍令陸甲第三四号により臨時動員下令	
4 7	平壌において歩兵第七七連隊補充隊を基幹として編成完結	
	爾後同地区の警備ならびに他地域への人員の補充等に従事	
5 頃	より主力は黄海道沿岸防備のため苔難、甕津付近において陣地構築	
8 9	日「ソ」開戦により各隊は原駐地に帰還平壌付近の陣地構築準備中停戦となる	
8 18	現地応召者を召集解除（その後再召集）	
8 26	平壌において武装解除	
8 28	秋乙に集結	
9 2	将校は美觀洞に収容	
	将校大隊（長大橋大佐）編入	
10 26	美觀洞出発	
10 30	興南港出航	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20	11	3	入「ソ」
	9	2	下士官以下三合里に収容
	9	8	第二作業大隊編入
	10	8	三合里出発興南に移動
	12	24	興南港出帆入「ソ」

隊長

大佐　鈴木仙吉

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

平壌師管区砲兵補充隊略歴
（野砲兵第三〇連隊）

通称号　朝第四七部隊、朝第二四七部隊

年月日	略歴	摘要
昭和20		
2 28	昭和十九年四月十二日軍令陸甲第四三号臨時動員下令により第三〇師団南方転用に伴い同月二十九日野砲兵第三〇連隊は野砲兵第三〇連隊補充隊となる 軍令陸甲第三四号により臨時動員下令	
4 1	編成着手	
4 7	平壌において野砲兵第三〇連隊補充隊を基幹として編成完結 爾後同地区の警備ならびに他地域への人員等の補充業務に従事	
5 頃	より一部をもつて黄海道沿岸の防備、陣地構築等に従事	
8 9	日「ソ」開戦	
8 10	平壌付近の陣地構築に着手	
8 15	停戦	
	一部の黄海道沿岸派遣隊原隊復帰	
8 18	現地応召者を召集解除（その後再召集）	
8 26	秋乙において武装解除	
9 2	将校は美勒洞に収容、将校大隊編入	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20	10	26	美勒洞出発
	10	30	興南港出帆
	11	3	入「ソ」
	9	2	下士官以下三合里収容
	9	上旬	三合里笋二一作業大隊編入
	12	20	三合里出発
	12	29	興南着
昭21	6		興南第一四作業大隊に編成替
	6	14	興南港出帆
	6	16	入「ソ」

隊長　中佐　大竹　喜代治

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

平壌師管区工兵補充隊略歴

（工兵第三〇連隊）

通称号　朝第四八部隊、朝第二四八部隊

年月日	略歴	摘要
	昭和十九年四月十二日軍令陸甲第四三号臨時動員下令により第三〇師団南方転用に伴い同月二十九日工兵第三〇連隊は工兵第三〇連隊補充隊となる	
昭20 2 28	軍令陸甲第三四号により臨時動員下令	
4 1	編成着手	
4 7	平壌において工兵第三〇連隊補充隊を基幹として編成完結	
	爾後同地区の警備ならびに主として南鮮への人員補充業務に従事	
5	以降本部を沙里院に置き黄海道沿岸の警備、陣地構築に従事	
8 9	日「ソ」開戦により部隊の約半数を平壌に移動同地区の陣地構築に着手	
8 15	停戦	
8 17	以降現地応召者を召集解除（その後再召集）	
8 26	平壌において武装解除	
9 2	将校は美觀洞に収容、将校大隊に編入	
10 26	同地出発	
11 1	興南港出帆入「ソ」	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20	9	2	下士官以下三合里に収容
	9	10	同地第二一作業大隊、第一九作業大隊等に編入
	11	12	病弱者は延吉収容所に移動
	12	20	三合里出発
	12	29	興南着
			興南第一四作業大隊に編成替
昭21	4		山本大尉以下約五〇名元山鉄道工場にて作業
	6	中旬	山本大尉以下興南復帰
	6	14	興南港出帆入「ソ」
	6	上旬	第一九作業大隊は秋乙第三作業大隊に改編
	6	11	三合里出発
	7	12	興南港出帆入「ソ」

隊長　中佐　柳田貞三

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

平壌師管区通信補充隊略歷

（第三〇師団通信隊）

通称号　朝第四九部隊、朝第二四九部隊

年月日	略歷	摘要
	昭和十九年四月十二日軍令陸甲第四三号臨時動員下令により第三〇師団南方転用に伴い同月二十九日第三〇師団通信隊は留守第三〇師団通信補充隊となる	
昭20 2 28	軍令陸甲第三四号により臨時動員下令	
4 1	編成着手	
4 7	平壌において留守第三〇師団通信補充隊を基幹とし編成完結	
	爾後支那、満洲、南鮮、内地等各部隊に対する人員補充業務に従事	
5	以降師管区の黄海道沿岸防備の各陣地ならびに司令部との通信連絡のため海州、甕津、長淵、信川、沙里院等に通信所を設置	
8 9	日「ソ」開戦	
8 15	停戦により黄海道地区派遣中の通信所を閉鎖原隊に復帰	
8 18	現地応召者を召集解除（その後再召集している）	
8 26	平壌において武装解除	
9 2	将校は美勒洞に収容同地将校大隊に編入、同行動	
	下士官兵は三合里に収容、三合里第二作業大隊その他に編入	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20	10	8	爾後病弱者を延吉に移送
	12	24	三合里出発
			興南港出帆入「ソ」
			隊長 少佐 佐藤定一郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

平壌師管区輜重兵補充隊略歷

（輜重兵第三〇連隊）

通称号　朝第五〇部隊、朝第二五〇部隊

年月日	略歷	摘要
昭和20		
2 28	昭和十九年四月十二日軍令陸甲第四三号臨時動員下令により第三〇師団南方転用に伴い同月二十九日輜重兵第三〇連隊は輜重兵第三〇連隊補充隊となる 軍令陸甲第三四号により臨時動員下令	
4 1	編成着手	
4 7	平壌において輜重兵第三〇連隊補充隊を基幹とし編成完結	
5	主として満洲、支那、南鮮、内地等の各部隊に対する人員補充業務に従事 以降師管区の黄海道沿岸陣地構築のため本部を沙里院に置き長淵、甕津付近の陣地構築材料の輸送に従事	
8 9	日「ソ」開戦	
8 10	平壌付近に陣地構築の準備に着手	
8 15	停戦	
8 18	黄海道沿岸に分散中の部隊を平壌に集結 現地応召者を召集解除（その後再召集している）	
8 26	平壌秋乙において武装解除	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20	9	2	将校は美勒洞に収容、将校大隊編入
	10	26	美勒洞出発
	10	30	興南港出帆入「ソ」
	9	2	下士官兵は三合里に収容、同地第二〇作業大隊編入
	12	19	三合里出発興南に移動、同地において興南第一三大隊に編成替
昭21	6	7	興南港出帆入「ソ」

隊長

中佐　大山　驥夫

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一五〇警備大隊略歷

通称号　朝第七六二一部隊

年月日	略歷	摘要
昭20 2 6	軍令陸甲第二一号により編成下令	
3 5	中部第四六部隊（姫路）において編成完結	
3 20	姫路出発	
3 21	宇品港出帆	
3 24	釜山上陸	
3 26	朝鮮黄海道沙里院着	
	爾後同地に本部を置き第一中隊を金山、第二中隊を南湖里、第三中隊を新幕に派遣し鉄道警備ならびに陣地構築に従事	
8 9	日「ソ」開戦	
8 15	停戦	
	主力の行動	
8 26	本部、第一、第二中隊は沙里院にて武装解除	
9 4	三合里に収容	
9 5	将校は美勒洞に移動、同時将校大隊に編入	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20	9	24	美勒洞出発
	9	30	興南着
	10	30	興南港出帆入「ソ」
	9	23	下士官兵は三合里第二三作業大隊編入
昭21	3	下旬	第二三作業大隊を解散秋乙第六作業大隊に編入
	6	17	秋乙出発
	6	21	興南港出帆入「ソ」
			第三中隊の行動
昭20	8	29	第三中隊は新幕において武装解除
	9	7	新幕出発
	9	15	咸興中学校に収容
	9	20	興南第二二作業大隊に編入
	12	10	同大隊を解散
			主力は興南第二〇作業大隊へ、一部は第九作業大隊に編入
昭21	1	3	両大隊共興南港出帆入「ソ」

隊長

大尉　西牧順一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一五一警備大隊略歷

通称号　朝第七六二二部隊

年	月	日	略歷	摘要
昭20	2	6	軍令陸甲第二一号により編成下令	
	3	2	中部第四七部隊（鳥取）において編成完結	
	3	19	鳥取出発	
	3	20	宇品港出帆	
	3	23	釜山上陸	
	3	24	平壤着	
	6	上旬	爾後教育訓練ならびに同地付近の鉄道警備 分散せる部隊を集結し主力をもつて黄海道長淵付近において陣地構築に従事	
	8	9	日「ソ」開戦	
	8	15	長淵において停戦となる	
	8	25	南川に集結	
	9	2	隊長以下主力は南川において武装解除 一部は海州にて武装解除後平壤に集結所在部隊と同行動	
	9	2	主力は南川出発行軍により鉄原着、同地より列車により咸興に移動	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20	9	13	咸興着、同地に収容
昭21	1	4	興南に移動、興南港にて積込作業等に従事
	1	28	興南第七作業大隊に編入
	6	3	興南港出帆
	6	6	入「ソ」
			隊長
			大尉 横山清治

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一五二警備大隊略歴

通称号　朝第七六二三部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭20	2	6	軍令陸甲第二一号により編成下令	
	3	2	中部第四七部隊（鳥取）において編成完結	
	3	19	鳥取出発	
		同日	宇品港出帆	
	3	20	釜山上陸	
	3	24	朝鮮新義州着	
			爾後同地に本部、第一中隊を置き第二中隊を水豊に、第三中隊を新安州に駐屯せしめ教育訓練ならびに鉄道警備	
	8	9	日「ソ」開戦	
	8	15	停戦	
	8	26	本部、第一中隊は新義州、第二中隊は水豊、第三中隊は新安州において武装解除	
	9	1	本部以下各中隊平壌に集結	
	9	2	将校は美勒洞に収容、同地将校大隊に編入	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20	10	25	同地出発
	10	28	興南着
	10	30	興南港出帆入「ソ」
	9	2	下士官以下三合里に収容
昭21	4	17	秋乙第六作業大隊編入
			爾後作業大隊出発迄に病弱者約三〇名は延吉に転送された
	6	17	秋乙出発
	6	21	興南港出帆入「ソ」

隊長　大尉　浅原武一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一五三警備大隊略歷

通称号　朝第七六二四部隊

年月日	略歷	摘要
昭20 2 6	軍令陸甲第二一号により編成下令	
3 2	中部第四八部隊（岡山）において編成完結	
3 19	岡山出発	
3 20	宇品港出帆	
3 23	釜山上陸	
3 25	平壤着	
	本部、第三中隊を平壤に置き第一中隊を新幕に、第二中隊を新成川に駐屯せしめ教育訓練ならびに京義線鉄道警備	
6 31	第一中隊、第二中隊平壤に移動	
	黄海道沿岸陣地構築のため一部派遣	
8 9	日「ソ」開戦	
8 15	停戦	
8 18	迄に黄海道沿岸派遣中の部隊平壤に復帰	
9 2	将校は美勒洞に収容	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20	10	24	将校大隊に編入
	10	28	美勒洞出発
	10	30	興南着
	9	2	興南港出帆入「ソ」
			下士官以下三合里に収容
昭21	4		同地第二三作業大隊に編入
	6	17	秋乙第五、第六作業大隊等に編成替
自	6	21	同地出発
至	7	25	興南港出帆入「ソ」

隊長　大尉　平松義夫

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一五四警備大隊略歷

通称号　朝第七六二五部隊

年月日	略歷	摘要
昭20 2 6	軍令陸甲第二一号により編成下令	
3 2	中部第四八部隊（岡山）において編成完結	
3 20	宇品港出帆	
3 24	釜山上陸	
	朝鮮平安北道江界着、次のとおり配備	
	本部　江界	
	第一中隊　満浦鎮	
	第二中隊　熙川	
	第三中隊　順川	
	爾後教育訓練ならびに鉄道警備	
8 9	日「ソ」開戦	
8 15	停戦	
8 26	本部以下各駐屯地にて武装解除	
9 1	本部以下（除第三中隊）平壌に集結	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭20	9	3	三合里第二三作業大隊編入
	9	16	第三中隊は三合里に収容、所在作業大隊に編入
昭21	4	11	秋乙第六作業大隊に編成替
	6	17	同地出発
	6	21	興南港出帆入「ソ」

隊長　大尉　水谷源介

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp